

平成28年度第1回坂井輪地区公民館運営審議会概要

実施年月日	平成28年7月1日(金)午後2時～		
会場	坂井輪地区公民館 4階 講座室1	出席委員	7名
		傍聴人	0名
出席者	公民館運営審議会委員	郷扶二子、伊藤智之、高橋真規子、土田幸子、石川 潤、 横坂幸子、松尾雅美 (石川 治委員、加藤かおり委員、中島伸子委員、欠席)	
	事務局	坂井輪地区公民館	阿部靖壽、白井嘉弘、高橋勇人
		西地区公民館	前田和隆、南部浩美
		黒埼地区公民館	鳴海俊明、小竹憲幸
	小針青山公民館	佐野憲昭、渡邊ますみ	
議題	1 平成28年度新潟市公民館事業の基本方針について(資料1) 2 平成27年度西区公民館事業報告及び平成28年度事業計画について(資料2・3)		
阿部館長あいさつ			
委員自己紹介			
郷議長あいさつ			
審議内容について以下に記載する。			
1 平成28年度新潟市公民館事業の基本方針について			
坂井輪地区 公民館長	新潟市公民館事業の基本方針について、新潟市総合計画「にいがた未来ビジョン」や教育 ビジョン第3期実施計画を踏まえ、3つの基本方針に基づいた6つの重点事業について説明。		
2 平成27年度西区公民館事業報告及び平成28年度事業計画について(資料2・3)			
郷議長	平成27年度公民館事業の報告及び平成28年度事業計画について、各館ごとに区切って 事業報告と事業計画という形で進めていこうと思いますので、まずは坂井輪地区公民館から お願いいたします。		
坂井輪地区 公民館長	平成27年度公民館事業の報告及び平成28年度事業計画、平成27年度事業評価シート について説明いたします。 以下、資料によって説明。		
郷議長	ありがとうございました。坂井輪地区公民館の報告と事業評価につきまして、委員の皆さんから、 ご質問ご意見はございますでしょうか。		
松尾委員	1番のコミュニティ・コーディネーター育成講座の記録集をつくりました。お手元にある かと思いますが、企画委員全体をまとめているコーディネーターが3名を中心に、今 まで3回やってきた講座と、実践編をまとめたもの、事業の成果だったり課題点がまとめて あります。いろいろな方に手に取っていただいて、これから地域に出る一歩を踏み出せるも のになったり、コミュニティ協議会の方ともつながる何かの手立てになればいいなという思 いが含まれております。		
郷議長	ありがとうございました。皆さんに1部ずつ入っておりますので、ぜひ目を通していただ ければありがたいと思います。高橋委員、お願いします。		

高橋委員	D a i j o b uが助成金を活用した事業展開が可能になったというお話がありましたが、D a i j o b uも助成金をもらわないと、お子さんを預けて事業を行うための保育者の謝礼が払えないということで、助成金をいただこうと、ここ数年頑張っておりました。足かけ5年から、もっと経つのではないのかなと思いますが、やっとこのたび、どのようにすれば助成金の対象となる事業として見てもらえるかというところから、みんなで勉強をしてやっと助成金をもらえているような形になりましたことをお伝えしたいと思います。よろしくお願ひします。
郷議長	ありがとうございました。D a i j o b uの活動も助成金がないと活動が成立しないということなのですね。
高橋委員	保育者がいれば母子分離ができるのですが、そうでなければ母子一緒にという活動になるので、やっぱり活動に制限が出るので、お母さんのリフレッシュ、子どもを支援するためには親の支援も必要だということで、頑張っております。
郷議長	ありがとうございました。ほかに何かご意見ございますでしょうか。
横坂委員	1回に22人から50人集まっているのは、とても充実した会が持たれているからだと思います。母子分離するためには保育者への謝礼がかかり、公民館の予算ではなかなか取れないと聞きます。子育て支援は場所だけでなく、親の学習の場にもなるように市から予算がおりたらいいと思います。
郷議長	やはり、小さいお子さんを持っているママたちに、たくさんリフレッシュしてもらいながら学んでもらうことと一緒に議論ができないかということで、環境の整備とか、母子分離の費用というのは欠かせないものだと思います。ただ公民館の予算は減額、減額ときていて、そこが苦しいところだという話を、この間館長ともしているところでありますが、助成金というのはすごくいい発想で、また活動に幅と広がりが出て、D a i j o b uがそういった活動を示すことによって、次からまた何か新しいことを学びたいという人たちの少しヒントになったりするのだなど、ほかの館の方にも知ってもらえるということで、素晴らしいことだと思いました。 いかがでしょうか。何かご質問等はありませんでしょうか。 ないようでしたら、次に西地区公民館にお願いしたいと思います。
西地区 公民館長	平成27年度公民館事業の報告及び平成28年度事業計画、平成27年度事業評価シートについて説明いたします。 以下、資料によって説明。
郷議長	ありがとうございました。西地区公民館につきまして、何かご質問ご意見はありますか。
横坂委員	25番の「小さい子のファミリー・コンサート」が実施されたのですが、100人の募集に対し34人だったのは何か他の行事と重なったのでしょうか。
西地区 公民館長	幼児期家庭教育学級の番外編で設定しました。もともと幼児期家庭教育学級に参加なさっている方を中心に募集をしたので、なかなか未就園児そのものがないというところで、100名まで会場は受け入れられるのですけれども、実際には32名しかおいでにならなかったということです。小学校の兄弟がいらっしゃる方に関しては、文化祭などが重なったのではない

	<p>かと思っています。</p> <p>募集としては 100 名来ていただきたいと用意していたのですが、実際、行事などと重なったりしたため、開催時期等工夫してまいりたいと思います。</p>
土田委員	17 番の公民館の利用団体を派遣に使うというお話だったのですが、どういうサークルを。
西地区 公民館長	<p>まず、きっかけが内野中学校の校長先生からの要請です。子どもたちのコミュニティ能力を高めたいということ、それから地域の文化・芸能活動みたいなものを体験させたいということで、公民館の利用団体の人から来てもらえないかという話でした。私どものほうで協力してくれる利用団体を募り、詩吟とか大正琴とか、演劇とか、いろいろのサークルから協力してもらいました。</p>
土田委員	演劇って、演じるほうですか。
西地区 公民館長	<p>演じる方です。演じながら子どもたちと絡んでいました。子どもたちのためになったかなと思っています。一方、利用団体の方々が、子どもたちと絡むことによって、ますます生き生きしてきていましたので、利用団体の方々にとっても相当良かったのではないかと思います。またお願いしたいと言われました。</p>
土田委員	相乗効果ですよ。本当にね。出番があるっていいことなのですね。
西地区 公民館長	<p>そうですね。今までどちらかという文化祭ばかりだったのですけれども、そういう声がかかると、やっぱり使命が与えられて実際やってみると、ちょっと疲れたみたいですがけれども、充実感が得られたようです。</p>
土田委員	でも、どんなサークルというわけではなくて、来ていただけるサークルを。
西地区 公民館長	<p>中学校で子どもたちとふれあいたいのだということで手を挙げてくれるグループを募集させていただきました。最初は少なかったのですが、公民館の方で声をかけさせていただきました。</p>
土田委員	<p>分かりました。要請が、「こんな団体さん」ではなくて、そういうところでも「来てくださる方に」というところで。</p>
西地区 公民館長	<p>普通は謝礼要るんですが、無償のボランティアとして来ていただきました。</p>
土田委員	ありがとうございました。
郷議長	<p>もう一つ、今のこの公民館活動、内野中学校で公民館活動なのですから、3回やったということですか。</p>
西地区 公民館長	<p>暮れの3日間の午前中だけ。午前1と午前2に分けて実施しました。地域教育コーディネーターを経由しながら学校で連携させていただきました。地域教育コーディネーターの方々からは積極的に協力してもらいました。学校は学校できめ細かく配慮していただきました。</p>
郷議長	<p>西地区公民館の学・社・民融合による人づくり事業の中で、いわゆる学校と連携、共催をしていて、授業というか学年全体とか、全校生徒対象に講演会とか、すごくたくさん子どもたちが学べていいなと、これを見て思いました。なかなかコーディネーターが連携先だと、どうしても学校の授業ではなくて、空いている時間とかを使っての事業になりますね。</p>
西地区 公民館長	<p>公民館と地域教育コーディネーターが一緒になって学校と話をし、どうですか、みたいな感じで。そういうやり方ですね。今、赤塚のほうを勝手に書かせてもらったので、また調</p>

	整させていただきます。
郷議長	ありがとうございました。ほかに、ご質問ご意見ございませんでしょうか。それでは、続いて黒埼地区公民館、よろしく願いいたします。
黒埼地区 公民館長	平成27年度公民館事業の報告及び平成28年度事業計画、平成27年度事業評価シートについて説明いたします。 以下、資料によって説明。
郷議長	ありがとうございました。それでは、黒埼地区公民館の事業報告、評価シートにつきまして、何かご質問ご意見はありますでしょうか。横坂委員、どうぞ。
横坂委員	12番の乳児期における絵本の大切さ、文集作り企画が34名と参加者が多いのですが、どなたが絵本についてお話されたのでしょうか。
黒埼地区 公民館長	黒埼図書館と連携で事業を実施しました。
横坂委員	分かりました。
黒埼地区 公民館長	大変上手にお話ししてくださいました。
横坂委員	分かりました。図書館の方ですね。
郷議長	ほかに、ありますでしょうか。高橋委員。
高橋委員	17番「ファミリーコンサート」なのですけれども、こんなに大勢の方が参加されているのに、今年度だけというのは、「めえめえず」さんのほうから今年度限りでとかいう何かがあったのでしょうか。
黒埼地区 公民館長	盛り上がりれば開催しますと申し上げましたけれども、実際は好評なのですが、いろいろありまして。
高橋委員	そうですね。分かりました。
郷議長	ありがとうございました。ほかに、ないでしょうか。私、漆器の絵付け教室が中止というのは予算の関係でということで、すごく残念だなと。
黒埼地区 公民館長	私どものほうも、まったくそのとおりで思っていてまして、なかなか先ほどから皆さんご承知のとおり、公民館事業は予算が厳しゅうございまして、この事業は予算がけっこうかかります。講師謝礼で1万8,000円くらいかかってしまうのです。何とかもう少し安くできないかという話もしたのですが、厳しい状況なので難しいです。
郷議長	県などの名工の授業とか、そういったものを公民館で使っていくことはできないのですか。
黒埼地区 公民館長	今のところ使っていないので、今後またいろいろ研究して何とかやりたいと思っているのですが。
郷議長	せっかく伝統工芸を子どもたちに伝える機会なので、そういった県の事業としてのタイアップができれば。学校のほうでは来ていますよね。
黒埼地区 公民館長	小学校ではやっていますね。
郷議長	また工夫して活動できればいいなと思いました。ほかに、ございますでしょうか。それでは、続きまして、小針青山公民館お願いします。

小針青山 公民館長	平成27年度公民館事業の報告及び平成28年度事業計画、平成27年度事業評価シートについて説明いたします。 以下、資料によって説明。
郷館長	ありがとうございました。小針青山公民館につきまして、ご質問ご意見ございますか。
伊藤副議長	小針青山公民館だけの問題ではないのですが、評価シートのほうでサークルを結成するというのが載っておりますが、これは事業を見られて新しいサークルをつくられたということですか。それとも既存サークルがこの事業に合致して参加するといっって新しくサークルをつくる。ということはこれを見て新しいサークルをつくろうかなと意欲がないと、これの数字は出てきませんね。
小針青山 公民館長	講座を立ち上げるときに、グループを立ち上げるという目標を設定して、それで講座に参加者がきて、サークルが増えれば参加者自らがグループをつくるのです。
伊藤副議長	何かありますね、こちらの坂井輪公民館も講座を二、三年前にやって新しいサークルができたという経緯がありますね。そういうことでしょうか。
小針青山 公民館長	うちの団体利用については新規育成講座と銘打って、はじめから新しいサークルをつくるために、この講座をやりますよというのはチラシの段階から募集をかけていました。4回しかやりませんでしたけれども、何とか新しいサークルができました。
伊藤副議長	利用団体としても、年々利用者数が減ってくる中で、統計データを見ますと、また減っているわけですね。それから利用者の団体数も減っている現状の中で、事業計画を見て応募するのかというのではなくて、いわゆる講座を開催してサークル活動というねらいなのですね。ぜひ、いいと思います。それから公民館のほうも、それぞれ講座が終わったときに皆さん自主的にサークルをつくりませんかという仕掛けをしていただけると非常にありがたいと感じております。
横坂委員	12番の「ゆりかご学級」についてです。この講座に続いて「続ゆりかご学級」「続々ゆりかご学級」と公民館の職員の方が繋げ、サークル作りをサポートしている姿を見ることができました。学びの場を提供するだけでなく、その後のお母さんたちの学び合いの場を公民館がサポートしているのは良いと思いました。 19番の人権啓発についてです。「こどもの人権セミナー」は小針青山公民館が継続して企画してきた講座です。予算面で大変だと聞きますが、市外からも申し込まれていますし、内容もしっかりと企画されていると思います。
郷議長	ありがとうございました。ほかにかがでしょうか。 それでは、これで4館の事業報告の説明をお聞きいただきましたが、全体をとおして聞きたいことがある方はいらっしゃいませんか。 それでは、引き続き「平成28年度西区公民館事業計画について」の説明をお願いしたいと思います。坂井輪地区公民館からお願いしたいと思います。
坂井輪地区 公民館長	平成28年度坂井輪地区公民館の事業計画について説明いたします。 以下、資料によって説明。
郷議長	ありがとうございました。坂井輪地区公民館の事業計画につきまして、何かご意見はいかががでしょうか。

	次に、西地区公民館のほうからお願いします。
西地区 公民館長	平成28年度西地区公民館の事業計画について説明いたします。 以下、資料によって説明。
郷議長	ありがとうございました。西地区公民館の計画につきまして、何かご質問ありますか。
松尾委員	1番の「リバーサイドウォーク」なのですけども、たくさんの参加者をもっと増やしたいとおっしゃっていたのですけども、学生の参加はあるのですか。
西地区 公民館長	基本的には中学校の1年生から3年生全部歩くのですけども、そこに一般公募をすると中学校を卒業して高校生になって、また参加したという方が一、二名いました。地元の方は50名弱なのですが、三桁に増やしたいです。
松尾委員	「うちのぷろじェくと」で大学生も興味がある人が。
西地区 公民館長	大学生も歩いている人がいました。
松尾委員	ありがとうございます。
郷議長	ありがとうございました。 次に、黒埼地区公民館お願いいたします。
黒埼地区 公民館長	平成28年度黒埼地区公民館の事業計画について説明いたします。 以下、資料によって説明。
郷議長	ありがとうございます。黒埼地区公民館の事業計画につきまして、何かご質問ございますか。土田委員。
土田委員	今、黒埼の館長がおっしゃったように中学校の美術部の作品を飾っているというところが、すごく地域の人たちや外からの人たちから、すごい作品が飾ってある。と本当にびっくりするほどです。
黒埼地区 公民館長	今回で2作目です。去年からです。
土田委員	フェルメールのときもすごく良くて、眺めに来てくださいというくらいなので、美術部の生徒の力量に応じた、みんなが上手ではないのだよと。でも一人一人ができる部分があるから、ああいう大きな作品というのは集合体だという先生のお話もあったりして、今の夏の公民館の壁アートについて、生徒が講師になるというイメージのようなので、いろいろな子どもが自分でできる部分、協力できるアートができれば、すごいなと思ひまして、それがまた生徒から事業にというきっかけづくりがあったりして、とても楽しみの一つに。ただ飾っていたものから、今度はつくりあげる、創造するということにしていくというところが拾ってもらって、とてもよかったなど。
黒埼地区 公民館長	補足説明をさせていただくと、コーディネーターは毎日のように行っていらっしゃいます。お話の中で、美術部は新入生が来ると1週間か10日くらいで大きい絵をつくって、うちの美術部においでと。それが終わると、今まで何十年も丸めて倉庫に取っておくのです。あんまり素晴らしい絵なのでコーディネーターももったいないという話になって、新しく来た美術の先生も、こんな素晴らしいものをなんで倉庫に入れておくのだという話があって、飾るこ

	とを考えましょうといってみなで会館内を見直したときに、ちょうどいい壁があったので飾ってみて、ものすごく好評で、あちこちから見えているのです。今年はあまりできがいいので、また先生から貸してと言われて、大会に出すみたいで、賞が取ればいいなと持っていきました。ちょうどまた夏の事業でつくるアートが飾られるので、いいなど。どういふものが出てくるのか楽しみで、うちの担当も本当に楽しみにしています。
郷議長	坂井輪中学校の美術部の子どもたちにセロファンを使った切り絵を作ってもらい体育館のギャラリー飾ったところ地域の方が目にして、ぜひ、自分の店に飾りたいので譲ってほしいと言われたことがありました。また、中学校の卒業式用に製作した絵をそのまま小学校の卒業式にお借りして飾らせてもらい卒業生の保護者の方や地域の方に喜んでいただいたことがありました。本当に中学生は素晴らしい才能を持っていることを実感しますが、学校では終わるとすぐに丸めて片付けてしまうようなのもったいないなあと感じます。
黒埼地区 公民館長	大変もったいないですね。
郷議長	もったいないですよ。私もそう思います。本当にいいと思います。小学生と一緒に大きな絵を描いて。
黒埼地区 公民館長	そうですね。協力的で助かっています。
郷議長	きちんとできたら見に来てくださいというご案内がいくと思います。 一つ聞きたいのですが、「ペーパークラフト制作体験」というのは対象学年は絞っていますか？
黒埼地区 公民館長	小学生ですね。
郷議長	学年は、例えば高学年とかではなくて、1年生から6年生まで、やりたい子は全部。
黒埼地区 公民館長	今のところ、聞きましたら高学年のほうを対象にやらせていただきたい。
郷議長	素晴らしいですね。
黒埼地区 公民館長	ぜひ皆さん黒崎市民会館に。
郷議長	来ていただいて。小学校低学年もするのかなと思ったので聞かせていただきました。
伊藤副議長	今、子どもの絵の話が出ておりましたけれども、実はほかの団体で、ふた月に一回、寺尾の地下道に絵を飾っているのですが、その貼り替え作業に行っているのですが、坂井輪地区の幼稚園の園児の方に、ふた月に一回ずつ交替で絵を出されて、そして十五、六枚貼っているんですね。やはり子どもの絵が貼ってあると親御さんも来て、ああ、間に合ったとか言って、ぎりぎりに来て見る方もいらっしゃるんで、前は公民館を利用して子どもの絵を飾ればまた来館者も増えるのではないかという気もしていますね。ただ、こちらのほうでは壁に地域コーディネーターの活動の新聞をずっと貼ってありますと、なかなか長文ですし、一堂に会して見るというのはなかなか機会がないのですけれども、いい機会かなと思っています。

横坂委員	文化祭の時に中学校の美術部の作品を展示したところ、地域の方がたくさん足を運んでくださったことがありました。また同好会の作品の運搬を中学生が手伝ってくれたことでとても感謝され、あたたかい交流が生まれていました。
郷議長	公民館の書道サークルの方が書き初めの練習の指導にきて下さるので、その成果として、公民館の1階に坂井東小学校の全児童の書き初め作品を展示させていただいています。公民館に来た人たちがその作品を見て子どもたちの学年が進むにつれての成長を感じてくださったり、ご自分のお孫さんの年齢と合わせて見てみたりしています。またご自分のお子さんの作品を見たくて公民館に足を運んでくださる方もいました。白い壁のままよりも何か子どもたちの作品があると公民館にいらっしゃる方々を増やしていくことにつながるのではと思いました。ありがとうございました。
黒埼地区 公民館長	子どもの写真を貼ると親が来て見る。親戚が来る。大人のはあまり来ないけれども、子どものものを貼るとみんな来る。
郷議長	ありがとうございました。 それでは、次に小針青山公民館お願いします。
小針青山 公民館長	小針青山公民館です。平成28年度小針青山公民館の事業計画について説明いたします。以下、資料によって説明。
郷議長	ありがとうございました。今の小針青山公民館の事業計画につきまして、何かご質問ご意見ございませんか。 どの館も予算が削られてきている中、人がたくさん来ていただけるような学習の機会を計画しているなということを感じさせていただきました。 これで、本日の議題、お預かりしていたものもすべて終わりましたが、せっかくの機会なので少し公民館のあり方とか、今の報告、そして評価、計画等をお聞きした中で、それぞれの立場で公民館について期待することとか、何かこういうふうにしていくといいなということとか、少しご意見をいただきたいなと思っておりますが、いかがでしょうか。
土田委員	今、小針青山の館長が65歳になった方が増えているということを知り、自宅にこもる、精神面でも健康面でも動きをつくってあげるのに、この公民館のいろいろな講座。今まであまりそこを意識しなかったのですけれども、とても引きこもりにならないように働きかける一つの場所なのだということのを再確認して、今ごろですけれども、そういう率先して出掛けてくる人ばかりではないということで、ニーズというか、どういう人たちに向けていろいろな出向くきっかけづくりというのを、いろいろあるのだなという感じを受けました。
郷議長	ありがとうございます。本当に公民館にいるとよい学びをして、生涯学習につなげることがどうしても大切になりますが、まず来てもらってほしい、たとえば男の料理教室とか、男性が退職後こもりやすいという今の社会の中で対策していただいて、元気にいきいきと暮らすためにということで、いろいろな誘いがけをしているなど。文化祭にタイアップして映写会とか、子どもたちの絵を飾るとか、一緒につくって展示するとか、それぞれの公民館が工夫しながら学びの機会を本当に出そうと考えていらっしゃることは、平成28年度の計画を聞いて再確認させていただきました。

伊藤副議長	<p>公民館の皆さんに発表を伺わせていただきまして、本当に議長がおっしゃったようにさらに感じたのですけれども、企画をされる、いわゆる仕掛けをつくる、それがまず第一なのです。そのあと、どういう人をお願いするかというネットワークを通じて人を集める。そういう繰り返してボリュームのあるメニューがあると思うのです。感じていますのは、イベントがあるたびに職員の方が出られて、事務系だけではとても考えられないことをやっているのです。例えば祭りがあると、必ずその場所に公民館の職員の方がいらっしゃるとか、それから子どものバンドで暗いところで音楽を聴いている、聴いているとおかしいのですけれども、支援をしているとか、本当に至るところに公民館の方が、夜昼構わず動いているので感心しているのは事実なのですけれども、いずれにしても、こういった企画を立てて、それから成果の発表までいくというのは非常に大変な作業ではないかという点で、非常に敬服している次第です。以上です。</p>
郷議長	<p>ありがとうございました。本当に、公民館に課せられている任務というか、どんどん広がって、特に学・社・民の融合が言われ、学校との日程を調整しながら学校と事業を計画していくというのは大変なことだと思います。コーディネーターとして学校にいますと、だいたい学校のほうは年間計画というのが前年度の2月や3月に決まっているので、公民館が4月スタートで日程調整となると、なかなか新年度には間に合わないみたいな形になる中、毎週コーディネーターに連絡を取ってくださったり、お声掛けいただいたりして、学校を挙げての講演会とかも本当に西地区公民館はたくさんやっているの、ご苦労が多いのではないかなと思ったりしていますが、石川委員、学校と公民館は、どういうふうなこれから活動をやっていることをお考えになっていらっしゃいますか。</p>
石川委員	<p>学校は学校で、ふるさとを愛する心を育む活動や、地域を知るという活動を当然進めているわけですが、地域のほうは地域のほうで中学生に対する要望であったり期待があったりするの、そこをうまくコーディネートするというのが大事だと思います。そのためには、やはり学校も地域を知らなければだめだし、公民館のほうも学校がどのような1年間を送っているのか、知っていくことが大切だと思います。お話しされたように年間行事計画について言えば、どこの時期でどういうときに一番効果があるのか、お互いに検討しながら計画するのも、スムーズにいく手かなと思います。いいことがいっぱいあり、どれを焦点化してやっていくかということをおまえて計画できると、学校のほうもより地域と密接な関係づけができやすいのかと思います。</p> <p>今、全体的なことを話させていただくと、やはり公民館の方々が利用者の課題も含めた生涯学習について、すごく頑張られているというのがよく分かります。その中で、講座を開くだけではなくて、講座を開いた中から今度は指導者と言いますか、リーダーを育成して、その方たちが公民館を利用した中でどんどん活動を広げていくということをやっている、意欲を持って講座を開いていただける、一緒に活動するメンバーを広げていただけるということになると、なおさら生涯学習の意味が出てくるのではないかと思います。</p>
郷議長	<p>ありがとうございました。公民館で学んだものは次世代に返そうという形ですと私たちは公民館にかかわってきていますが、横坂委員はその最先端で活動してくださっていますが、どのようにお考えですか。</p>

横坂委員	<p>公民館は市民が無償で学ぶ権利があることを保証する場としてできた、と聞いています。それが今、「オープンカレッジ」をつくらなければならない状況にあるのは残念です。公民館の予算が削られる中、他と連携しながら学びの場を維持している姿が見られますが、やはりもう少し市から公民館への予算がつくといいと思います。</p>
坂井輪地区 公民館長	<p>あいさつのときにもお話ししましたが、平成22年6月に公民館改革宣言というものが出されました。公民館が本当に必要なのか、公民館がやっている事業が本当に地域のためになるのかと言われたときに、公民館はこういうふうに変わっていくのだということで改革宣言を出し、その改革宣言に基づいて、今、中央公民館で公民館の在り方を今年1年かけて検討しようということで、公民館の在り方会議を始めたところです。</p> <p>予算については、重点事業を中心に予算の配分をしていることから、他の事業については厳しい状況となっております。</p> <p>一番今、困っているのは施設管理ですが、とにかく管理費も削られている状況のため、そういったことも含めて公民館をどうやっていったらいいのかというのを今年1年かけて協議をするという段階になっています。</p>
郷議長	<p>ありがとうございます。なかなか今の事務局側の話を聞くと、また新たな問題が出てきているということです。平成22年に公民館宣言がありました。今一度公民館はどういう場所なのか、あり方、内容をハード面も含めていろいろ考えていかなければだめな時期になってきていると感じました。</p> <p>時間も少なくなってきましたが、高橋委員、いかがでしょうか。</p>
高橋委員	<p>お話を聞いて、学・社・民という本当に地域教育コーディネーターが学校に入り始めて、その方たちが活躍をして民間とくっついて活動ができるようになってきたなと感じました。そして、今まで小学生対象の講座がわりと多くて、6年生までは公民館を使えるけれども、中学生になるともう公民館って僕たちの行く場所じゃないからというような感じを受けていたのですが、絵を飾ったり、中学生が講師として招かれることによって、そこで石川委員がおっしゃったような地域に戻ってくるリーダーができるのかなという感じを受けました。以上です。</p>
郷議長	<p>ありがとうございます。それはすごく明るい兆しが出てくるような感じを受けます。松尾委員、いかがですか。</p>
松尾委員	<p>文化祭とかの参加者もたくさんいて、活動協力員も関係している事業もたくさん参加者が数字で見られて、活動協力員の事業だけではなくて、ほかにも企画委員という形で何かをつくったり、いろいろな市民の方と区民の方と協力してできている体制があるのだなということを思いつつ、やっぱりそうしないとできないという状況であったり、満足には講師の費用とかを払えていない状況もあるとは思いますが、その中でも好意という思いで動いていただいている区民の方がたくさんいるのだなというものをすごく感じました。私は中央区民ですけれども、拠点は西区でやっているの、これからも協力していきたいなと思いました。</p>

郷議長	<p>ありがとうございました。進行を事務局に返しますが、運営審議委員の皆さんのお話を聞いたとおり、私たちはいつも公民館を応援しておりますので、いいあり方検討会の会議を重ねて、また何か声を出すというときには、ぜひ私たちにもご協力できることがあれば協力し、いい形の公民館活動が続いていけばいいなと思っております。</p> <p>それでは、事務局にお返しさせていただきたいと思います。ありがとうございました。</p>
事務局	<p>皆さんありがとうございました。これをもちまして本日の坂井輪地区公民館運営審議会を終了させていただきます。</p> <p>正午終了</p>